

一年の折り返し点で残り半年間の無病息災を願う

「夏越祓」(なごしのはらえ) で心身を清める

日本には古くから6月30日の「夏越祓」、12月31日の「年越祓」という半年毎に厄を祓う神事があります。「夏越祓」では、茅(ちがや)で作られた大きな輪をくぐる「茅の輪くぐり」や、また、穢れ(けがれ)を人形(ひとがた)に移し、神社に納めたり川に流したりといった風習が市内各神社や全国に残っています。

また、京都では、6月30日に“水無月”をいただく習慣があります。“水無月”は、古来は貴重であった氷を白色のういろうで見立て、邪鬼を祓うといわれる小豆をのせた和菓子です。“茅の輪くぐり”“人形”同様、現在も受け継がれている「夏越祓」の風習です。

嵐電(京福電気鉄道株本社:京都市中京区)では、梅雨から夏にかけての厳しい季節を乗り越え、残り半年間の無病息災を願う「夏越祓」を発信いたします。通常より長い期間“茅の輪”が設置される、沿線の車折神社と野宮神社やこの行事に欠かせない“水無月”をご紹介します。

嵐山駅に來られた多くの皆さまに「夏越祓」を知っていただきたく、嵐山駅インフォメーションで人形をお配りいたします。人形は、車折神社・野宮神社で、“茅の輪”が設置されている期間、納めていただけます。(人形は神社にもご用意されています)

半年の節目として受け継がれている風習にふれ、新たな気持ちで残り半年間を過ごしましょう。



(写真:車折神社)

下記神社では、嵐山駅インフォメーションでお配りした人形を受け付けます。
9時~17時 ※6月30日は15時まで

■車折神社 (「車折神社」駅下車すぐ)

【茅の輪くぐり】

6月1日(日)~6月30日(月)

※6月30日(大祓)

■野宮神社 (「嵐山」駅下車 徒歩10分)

【茅の輪くぐり】

6月21日(土)~6月30日(月)

※6月30日(大祓)15時~